

個別指導で高いクオリティの教育を実践する学習塾 海外留学の支援を通じて「留学熱を活性化させます」

大場規之

株式会社 和田塾
代表取締役

静岡県で展開されている「和田塾」が注目されている。早くから個別指導に特化し、クオリティの高い教育は受験生からの評判が高い。一方で、海外留学の支援にも注力。全国で拠点を築いた。和田塾はどのような人材を輩出しようとしているのか。運営する大場規之社長に聞いてみた。

——和田塾は、静岡県で展開されている学習塾ですが、個別指導が特徴であり、学生アルバイトの講師を雇わないなど、質の高い教育を行っておられます。どういうポリシーで和田塾を運営されていますか。

大場 まず、個別指導ですので、生徒一人ひとりの個性を如何に伸ばすかです。日本はどちらかといえは十把一絡げの教育が主流で、個性を

伸ばす教育は比較的に弱い仕組みです。やはり、一人ひとりを伸ばすのが教育の本質であって、それに特化した塾でありたいと、ずいぶん前から一対一の個別指導の塾を運営してきました。今では個別指導の塾が主流になりつつありますが、私たちが始めた頃は、個別指導はコストがかかり、当時の主流だったクラス指導の周辺の塾に比べて授業料の単価は

段違いに高かった。にもかかわらず、今日まで続けられているのは、単価が高くても、一人ひとりを見る個別指導のクオリティの高さが認められてきていると思います。

——もう一つの特徴は、海外留学の斡旋を「TSC留学センター」として展開しています。なぜ、海外留学に取り組みされているのですか。

大場 TSC留学センターは、六年ほど前から全国にネットワークを広げ、おかげさまで昨年末、四十七都道府県に拠点を完成させました。一番の思いは、六年前ごろ、子供たちの「内向き」がよく指摘されました。外に出たがらない、日本にとどまっていれば幸せがそれなりに永続できるだろう、そんな空気が社会的にも充満していました。子供たちにもそんな雰囲気を感じていました。それに対して私は強い危機感を感じまし

社内では英語公用化を始めたり、二三年前には大手家電が全社員の八割くらいに相当する千二百人を外国人採用するなど、四年ほど前から社員のグローバル化が一気に進みました。これはある意味、タフネスで世界中を飛び回る、外国語も堪能で、感性も持っている有能な外国人がいれば済むということであり、そういうものを持っている若者は日本にはもういないと思わせる動きです。その後、一三年、一四年には、言葉の壁の問題でやはり日本人が必要という反動も若干出てきましたが、日本企業全体、中小も含めて、グローバル人材を欲しがるのは、ますます強くなっています。それに我々も応えなければいけない。もちろん日本国内でそれに対応できる人材が育成できればいいのですが、今、そうした人材を育成できる環境は日本にはなかなかない。グローバル人材を本気で育てるためには、英語教育をはじめ、日本の教育システムを変えなければなりません。そのためには十年、二十年と時間がかかります。これでは、即戦力となる今の中高生には間に合いません。

——最後に、和田塾の課題、今後やりたいことを聞かせて下さい。

大場 今、業界としてもそういう動きが始まっていますが、英語がますます重要になってきています。我々は今まで学習塾として受験のための英語をやってきましたが、これからは、それだけでは塾としても不十分だと思います。TOEFLが将来的に大学受験に使われるという話も出ていますが、そうなると、今までの受験英語とはまったく違う指導をしなければなりません。英語によるコミュニケーション能力など、現在の和田塾の受験英語とは違った指導が必要で、そうすると、英語学校、英語教室といったところとの融合、これまでの受験英語、コミュニケーション、英語、実用英語のようなものの垣根を取り、トータルとして英語教育が提供できる方向にもっていかなければいけないと思います。私たちローカルで学習塾を経営する者としては、「ローカルにおいて、英語ならば、そこに任せられる」という企業になり、塾にしていかなければいけないと思っています。



○おおば・のりゆき

1963年、静岡県生まれ。慶応大学理工学部卒業後、大手計測機器メーカーに勤務。フランス、ドイツを中心に欧州に駐在。帰国後、株式会社和田塾専務取締役役に就任。静岡県議会議員、建設会社取締役を経て、和田塾代表取締役役に就任。全国の学習塾が加盟する日本最大の海外留学支援組織「TSC留学net」の代表。

クが出来ました。東京では留学の情報は簡単に手に入りますが、地方都市では留学の相談ができる場所はほとんどない。そういうところで塾が拠点となって留学熱が盛んになれば、子供たちも留学をして海外の冷たい海を知って、厳しい社会を乗り越えていける力が育まれる。全人教育の一つとして留学を勧めたいです。

——大場社長はブログ等で、子供たちに生きる力をつけるべきだとい、かわいい子には旅をさせようとおっしゃっています。力強い人間を育てようとの思いが伝わってきます。

大場 私たちは学習塾をやっている

るので、学業を身に着ける、知識を身に着けることは、もちろん大事なことです。そうしたものを社会に出して発信する、社会に役立てるためには、やはり、いろんな環境のなかでそれを発揮できる力を持つていないと、せっかくの知識が活かされません。それは、今の日本ではなかなか対応できない部分でもあります。

——さて、塾経営を通じて人材を輩出する大場社長ですが、日本の企業が求めている人材について、どういう認識をお持ちですか。

大場 二〇一一年あたりからグロ